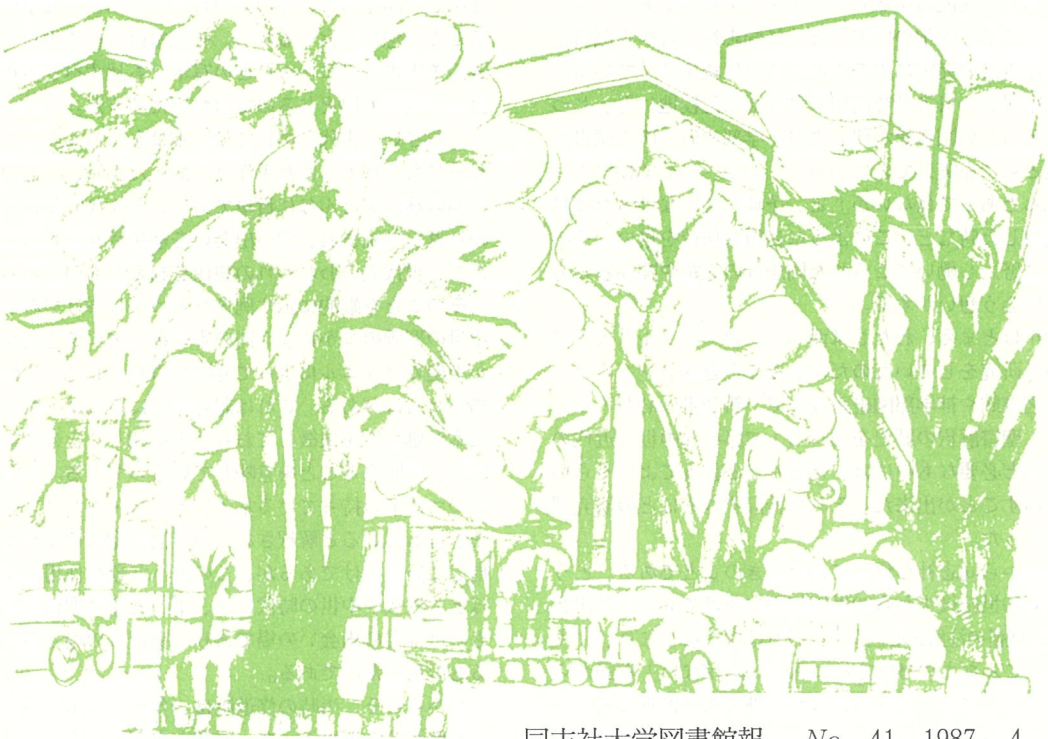


びぶりおてか



同志社大学図書館報 No. 41 1987. 4. 1

出会いの場として

神学部長 野 本 真 也

人間は旅人であり、人生は出会いを求めてさまよう旅のようなものであるという考えが「びぶりあ」（聖書）の中にある。このように人生を旅と見立てるなら、図書

館というものは、いわば出会いの場としてのオアシスのようなものではないだろうか。

そういえば、学生の頃、図書館の読書室を恋人とのひそかな出会いの場所にしていた友人がいたことを思い出すのだが、彼にとっては、図書館の中での強制された沈黙が、彼女のそばに「ただ一緒にいるだけで幸せだ」という心の触れ合いの喜びを倍化させる作用をしていたにちがいない。青春の孤独な人生砂漠の旅の中で、図書館は昔も今もこのような愛の出会いのオアシスとして、もってこいの場所なのかも知れない。

ところで、誰でも小さい時に「これは面白い」と思って胸をときめかせながら何度も繰り返し読んだり、自分の本棚の特等席に並べてみたりして、大切にしていたあの本、この本との出会いを思い起すことができるだろう。そして、そのような仕方で自分なりの「蔵書」（びぶりおてか）を持ち始めた子どもごろの延長上に、「図書館」（びぶりおてか）の中の多くの本との出会いもまた起こるにちがいない。図書館は、書物を媒介として、古今東西のさまざまな人生の旅を歩んだ多くの人々と出会い、新しい知識や深い知恵、それに素晴らしい経験の共有を可能にさせてくれるという意味で、まさに出会いの

目 次

出会いの場として……………	1
参考室の配置が変りました……………	3
新雑誌室の利用案内……………	3
図書館学に関する二次文献(中)……………	4
実例を中心とした資料のさがし方⑧……………	6
ラーネッド記念図書館この1年……………	8
ペンギンブックスを読みませんか……………	9
相互利用について……………	10
「特別研究図書費」による購入図書(3)……………	11
ピックアップ……………	
—御布告—……………	12

場であり、交流の場としてのオアシスなのである。

日本の私立大学の中で、とくに同志社は昔から蔵書や図書館施設の充実に力を入れてきた伝統を持っている。その結果、今日では今出川校地にも田辺校地にも、じつに素晴らしい図書館が建設され、学部や研究所の蔵書も質量ともに充実してきている。「おや、こんな本までが、ちゃんとあるではないか」と、予期していなかった文献を発見した時など、このような貴重な伝統を培い、そのために努力し働いてこられた同志社の先輩や関係者の方々に会おうという思いがする。

20年ほどまえ、わたしは西ドイツのハンブルク大学で聖書の研究をしていたのだが、そのときはハンブルク大学の図書館や神学部図書室などで、新刊書はもちろんのこと、聖書解釈の歴史を調べる上で必要な中世や近代の文献など必要なものには、ほとんどと言ってよいくらい目を通すことが出来た。それは贅沢すぎるほどの研究環境であった。

それから同志社へ帰ってきたときのことである。どうしても19世紀後半から20世紀初頭にかけてドイツで出版された聖書の注解書を当たらなければならなくなり、「まさか、こんなものは同志社にあるはずはない」と頭から決め込み、なかばあきらめながら神学部の書庫に入ってみると、ちゃんとそこにあるではないか。その本は1908年から1941年まで当時の神学科で教えておられたアメリカ人宣教師E. S. Cobb 教授が寄贈されたものであった。この感動的な発見と出会い以来、日本には一冊しかないような貴重な文献を書庫の中で次々と見つけているのだが、そのたびに先輩たちへの感謝の想いを新たにさせられている。

ところで、最近は印刷技術や出版産業の発達によって、あふれるばかりの大量の書籍を目の当たりにしても、それほど感動を覚えるといったことが少なくなったけれども、やはり一冊の本が誕生するのは、現在でも大変なことなのだということに、最近ある本を読んでいて、あらためて気づかされた。というのは、そこにはこんなことが書かれてあったからである。

「かつてジョージ・スチュアートという小説家が、アメリカで出版される一冊の本の背後には、すくなくとも出版を断られた本が十冊あり、採用されなかった一編の原稿の陰には、完成しても出版社に持ちこまなかった原稿が十編あり、完成しても持ちこまなかった一編の背後には、書きはじめたけれども完成しなかった作品が十編あり、さらにその完成しなかった一編について、考えてみたがついにペンをとるにいたらなかったものが十編あるだろうという計算をした」（『アメリカ人の日本観』（シーラ・ジョンソン著／鈴木健次訳、サイマル出版会）。

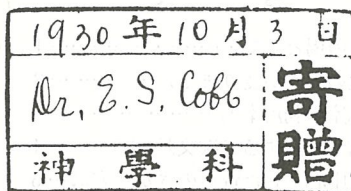
図書館の書棚に並べられた多くの本の中から一冊を抜

き出して開く時に、その本の背後にこのような事情があることに想いをはせるなら、その本は古代や中世の手書きの羊皮紙やパピルスなどの写本にも比すべき貴重な出会いの経験の場となるのではないだろうか。

じっさい、古代や中世では原本はもちろんのこと、コピーである写本もまた手作りであったから、一冊の本、一巻の巻物がどんなに貴重であり、どんなに大切にされ、繰り返して読まれ、深い出会いを経験させるものであったか、現代人のわれわれの想像を越えたものがある。

そのことを端的に示す例をひとつだけ挙げてみると、中世の聖画のなかに、一冊の本を持っている乙女マリヤが天使ガブリエルによって受胎を告知されている場面を描いたものがある。これは記号論的にみれば、閉じられた本が処女性を象徴しており、本を開くことは聖霊と交わり、受胎することを意味しているのである。そして、このマリヤの持っている本は、イエス・キリストの誕生を予言していると解釈されている旧約聖書のイザヤ書を指しているわけであるが、このような象徴作用が生じるほど、古代や中世の時代には、本（とくに聖書）というものは神との出会いの場であり、交わりの場ともなりうるものだったのである。

だからこそ、当時の修道院は、多くの写本を持つ図書室を備えることによって、信仰と学問の研鑽の場となっていたのだが、現代のわれわれの図書館とその蔵書も、ただ単に知的情報を収集するための場に終わらせてはならないだろう。もちろん図書館の機能は、オンライン検索システムの整備やデータベースの国際的なネットワークの構築などによって、これから急速に変化し、また多様化していくことであろう。しかし、たとえどんなふうに変化していくとしても、図書館が何よりもまず人格的な出会いの場であることを心に留めながら、お互いに大切にしていきたいものである。



参考図書の配置が変わりました

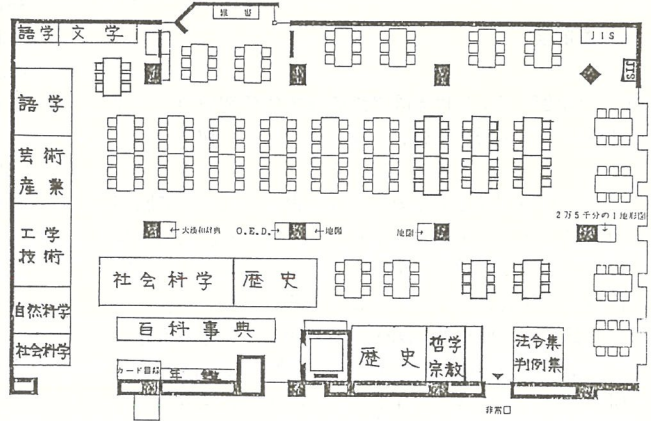
図書館学, 文献目録, 雑誌目次, 記事索引 (000~029)

↓
メインカウンター前へ

参考図書室が充実されます

昭和48年12月の開館以来、雑誌・参考図書室は、雑誌（新刊展示）と参考図書の配架を共有している室として利用者に親しまれてきました。しかしながら13年余りを経たず、情報の洪水現象のなか二次資料群の出版量も増大しそれを収容するスペースも限界に達してきました。一方、雑誌の利用方法についても新刊雑誌の展示に加えて製本雑誌も開架式で利用したいという利用者の熱い要望がありました。これらを解決する方策として今年4月より第1閲覧室上層階を雑誌の専用室として開設することになりました。これにより参考図書室も独立し、雑誌展示架を移動した後に座席を36席増やすとともに書架も増設することになりました。メインカウンター前の目録コーナーに増設する書架と合わせますとこれまでの5割増とかなり大巾なスペースをとることができ、今までは必要な図書でもやむをえず書庫に入れていたものを出せるようになりました。

例えば統計書や白書などの必要なバックも参考図書室に置くことを検討しています。標記のように000~029の参考図서가目録コーナーに出る関係上、参考図書室の配置もかなり変わりますのでお知らせいたします。



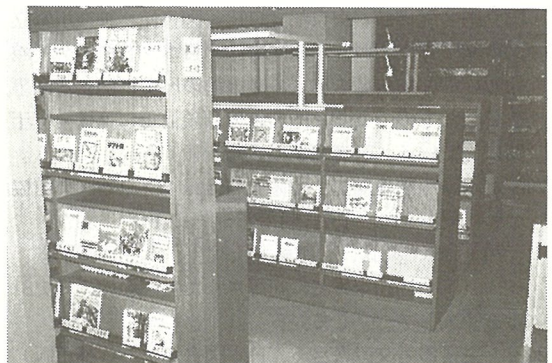
新雑誌室の利用案内

—新雑誌室、昭和62年4月よりオープン—

本学でも雑誌の利用は年々増えて来ています。利用者の統計を見ると、より高学年、院生、教員になるにつれて利用度が高くなっています。新しい情報は出版形態からして、図書よりもより多く雑誌の中にある傾向がある事を示しています。研究者はさらに、単に新しいというだけでなく、遡って系統的に情報を求める傾向にあり、バックナンバーを一度に必要とします。本学の今出川図書館は3年次以降の、学習というより研究をするという利用者を対象としており、そのための図書館の充実が求められています。その一環として、以下のように雑誌室の独立、充実、利用し易さを追求しました。

一階メインフロアのコピーコーナーの南側にある第一閲覧室を新しく雑誌室として転用しました。今まで参考図書室の北側一角にありました雑誌コーナーの新刊展示雑誌 468タイトルと書庫に保管していたものの内、良く利用されるバックナンバーの一部、約7500冊（約 218タイトル）をこの雑誌室で自由に閲覧出来るようにしました。席数も32席増えて84席となりました。雑誌室の入口

にはコピーコーナーがあり、利用者にとって相当便利になるものと思います。もし雑誌室に必要とする新刊雑誌およびバックナンバーがなければ、従来通り目録で調べ、メインカウンターへ請求して下さい。



図書館学に関する二次文献 (中)

前回の続編です。今回から田辺校地ラーネード記念図書館にも所蔵しているものには、それぞれの分類番号を付します。雑誌には分類番号がないので“田辺所蔵”とします。(書名は『』で囲み題名は“ ”で囲む)

〔特定主題書誌〕

＜図書館史＞

25. 『明治時代に於ける図書館の歴史的研究史料』竹林熊彦編 第1冊-69冊、70巻(総目次)(P010.21; T)

明治期の図書館関係史料を抜き書きしたもので原稿用紙にインクの手書きのオリジナルである。索引はないが、全69冊の総目次を館内で作成し、製本している。総目次(70巻)以外は和とじである。

26. “日本図書館史並ニ関係事項ニ関スル参考書目録”＜日本図書館史並ニ関係事項年代記VI＞田村盛一『書研究』Vol. 6 No.2 1933年5月 p.187~197 (P010.1; T10) 所収

1931年8月までに発表の図書、雑誌 410点を31分類に分けて列挙している。——年代記I-V(Vol. 5 No.1-4、Vol. 6 No.1) は図書を中心とした文化発達史とも言えるものを編纂している。

27. “図書館史主要文献：明治以後”石井敦『図書館雑誌』Vol. 46 No.5 1952年5月 p.104 (P010.1; T2) 所収

戦前に発表されたものと戦後に発表されたものに分けて40点をリストアップしている。

28. 『図書館史に関する文献目録』図書館短期大学図書館研究会編・刊 1970 p.49+p.15 (028.01; T)

1926年~1969年12月末までに著わされた単行本・雑誌・紀要・館報の中から図書館短期大学附属図書館、国立国会図書館、東京都立日比谷図書館、神奈川県立図書館、神奈川県立川崎図書館、日本図書館協会(館報類のみ)で所蔵の日本の図書館の歴史に関する記事を集めたものである。配列は分類項目毎にほぼ発行年順にしている。著者名索引(50音順)を付している。

29. “附録 図書館史・団体史略目録”『日本図書館協会80年史』1892~1971(明治25~昭和46年) 1971 p.70~72 (010.6; NA) 所収

1931年~1970年までに刊行された各図書館の年史81点をリストアップしている。

30. “主要参考文献書目”『日本図書館史』(補正版)

小野則秋 玄文社 1973 p.305~307

(P010.21; 0-la、田辺010.21; オ) 所収

通史、奈良・平安・鎌倉・室町、江戸、明治・大正・昭和各時代に分けて約80点収録している。この後に、日本図書館史略年表(p.308~314)を付している。

31. 『国立国会図書館に関する文献目録』1948~1958 稲村徹元編・刊 1962 p.105 (016.026; I)

昭和22年国会図書館法の成立した頃より、23年2月の国立国会図書館法の成立、23年6月の開館以降、33年6月の開館10周年祝典挙行的頃までに刊行されたものを対象としている。図書、雑誌記事、新聞記事等約1,200点を載せている。新聞記事は巻末の附録の中に昭和21年から昭和33年までを年代順に収録している。

32. “国立国会図書館に関する文献一覧”『国立国会図書館30年史』資料編 国立国会図書館 編・刊 1980 巻末p.19~61 (016.11; K-3 (V. 2)) 所収

ほぼ1946年~1979年3月末までの間に刊行、発表された国立国会図書館に関する文献を採録対象としている。単行書、新聞記事、雑誌記事、欧文資料の順に4部構成とし、それぞれを刊行年月順に配列している。

33. 『東京の図書館に関する文献年表(稿)』-明治5年~昭和20年(1972~1945)東京の図書館史を発掘する会(図書館問題研究会東京支部)編 研友社 1975 p.149 (028; T3)

この文献年表は東京に所在し社会教育機関としての性格をもつ図書館等が、編集又は発行した出版物とそれらの施設とその活動の文献を目録に編成したものである。配列は文献の発行年月順に掲げている。図書館機関誌総目次を付している。

＜図書館学教育・研修＞

34. “図書館学教育文献目録”『図書館界』Vol.22 No.1 1970年5月 p.21~28 (P010.1; T) 所収

1960年~1969年の10年間に刊行された雑誌論文を各雑誌毎に掲げている。図書館員教育に主軸を置きドキュメンテーション、読書指導は略している。

35. “参考文献”『図書館学教育資料集成』第1~7巻 清水正三ほか編 白石書店 1978~1985 (010.8; T3) 所収

1巻; 図書館通論 2巻; 図書館資料論 3巻; 図書館活動論 4巻; 図書館史(近代日本編) 5巻; 参考業務 6巻; 児童奉仕論 7巻; 学校図書館論(第2版)。各巻末にそれぞれの関連の参考文献を付して

いるが、基本的な資料が選ばれており収録文献数も多く便利なものである。

<図書館行政>

36. “図書館行政文献目録”『図書館界』Vol.23 No.1
1971年5月 p.28~39 (㊦P010.1 ; T) 所収
1946年~1970年の間に刊行された図書館行政関係の雑誌論文を集めている。図書館関係の雑誌を重点的に扱い、約330点を9項目に分類している。
37. “図書館法関係文献目録”(穴戸伴久)『図書館法研究—図書館法制定30周年記念・図書館法シンポジウム記録—』裏田武夫ほか 日本図書館協会編・刊 1980 p.167~188 (㊦323.986 ; N-2、田辺011.2 ; ト) 所収
1945年~1979年までの期間を対象とし、配列は内容により大まかに区分した後、収録誌の発行年月順としている。主として雑誌論文だが単行本には※を付している。約400点。
38. “「図書館法」関係文献目録”—1950年~1976年まで—前田章夫『みんなの図書館』No.36 1980年5月 p.36~42 (㊦P010.1 ; M2) 所収
この目録は1950年~1979年の間に図書館及び社会教育関係雑誌に掲載された「図書館法」に関する文献を中心に年号順に集め、単行本も各年の末尾に収録している。約105点。
39. “著作権関係法令・判例・文献総覧”伊藤信男編 文部省 1956 p.282 (㊦019.92 ; I) 所収
明治初年より昭和31年8月末日までに公表された著作権関係文献を法令、判例の後に入れている。後出40は図書だけがこれは雑誌論文も含んでいる。
40. “邦文著作権文献の紹介”伊藤信男『ジュリスト』No.282 1963年9月 p.37~40 (㊦P320.1 ; J、田辺所蔵) 所収
関係の邦文図書約60点を解説しながら紹介している。
41. “著作権法参考文献”『著作権法ハンドブック』(最新版)文化庁編 著作権資料協会 1984 p.168~172 (㊦328.2 ; B2-2、田辺㊦021.2 ; チ) 所収
解説書や参考書等、この関係の図書の形態を5種類に分け約70点を配列している。
42. “<図書館と自由>に関する文献目録”1952~シリーズ『図書館と自由第1集~第7集』~ 日本図書館協会編・刊、1975~ (㊦010.1 ; Nほか、田辺015 ; トほか各巻別請求記号) 所収
「図書館の自由に関する調査委員会」が年1冊程度のシリーズとして「図書館と自由」を刊行し、巻末に関係文献を収録している。1952年以降に発表された邦文文献で現在も継続中である。

43. “関係文献一覧”『「図書館員の倫理綱領」解説』図書館員の問題調査研究委員会編 日本図書館協会 1981 p.53~60 (㊦013.1 ; T) 所収
1952年~1981年までの文献約120点を年代順に配列している。

<図書館建築>

44. “図書館建築—論文目録”『図書館』(建築計画学11)守屋秀雄、佐藤仁、丸善1970 p.161~163 (㊦012.3 ; M2) 所収
1954年~1970年までのもので内容により5項目に分類し、その中でほぼ発行年順に60点を列挙している。
45. 『図書館建築関係文献目録 1965~1980』宮崎萬壽、久保美知子編 日本図書館協会 1981 p.124 (㊦028.012 ; M)
1965年から1980年までの間に発行された図書館建築に関連する単行本と図書館関係逐次刊行物と建築関係逐次刊行物中の論文・記事が集められている。索引は著者索引と設計者索引とがある。
46. “参考文献”『図書館施設と設備』三浦道雄著 コロナ社 1970 p.233~234 (㊦012 ; M) 所収
巻末に図書館の施設及设备に関する図書、雑誌論文48点を洋書も入れて掲載している。国内のものは1952年~1967年までのものをあげている。

<図書館管理>

47. “参考文献”『図書館の経営管理』草野正名 内田老鶴園新社 1968 後付p.1-2 (㊦013 ; K) 所収
1950年~1967年までに発刊された関係の図書を和書30点、洋書6点をリストにしている。和書は訳書が多い。

<図書整理>

48. “資料選択と蔵書構成—公共図書館を考える—”篠崎セウコ、穴戸寛『図書館界』Vol.28 No.2/3 1976年9月 p.125~126 (㊦P010.1 ; T) 所収
1966年~1975年までの公共図書館を中心とした関係文献を26点紹介している。
49. “収集・選択関係文献目録”吉田憲一、山田伸枝、志保田務『図書館界』Vol.31 No.1 1979年5月 p.138~148 (㊦P010.1 ; T) 所収
戦後から1978年までの図書の収集・選択に関する文献を約420点収録している。前出48は公共図書館を中心としているがこれは大学図書館に関する文献を最も多く採録している。

実例を中心とした 資料のさがし方—31—

〔質問例 1〕

林房雄の年譜をいくつか比較照合しようと思うがどうしてさがしたらよいか。

〔回答〕

「日本書誌の書誌」の人物編Ⅰに林房雄の項があり、彼の年譜や著作目録を9点紹介しています。

〔質問例 2〕

本学元総長上野先生の業績はどこにでているか。

〔回答〕

前問と同じく「日本書誌の書誌」で調べます。人物編にはありませんが総載編の個人著作のところに「上野直藏博士還暦記念論文集 南雲堂 昭38.2 p.613~619」とでています(今出川⑩840.4; A3)尚、最新のものについては後述参照。

〔質問例 3〕

キリスト教と日本文学の関係について調べたいのだがどんな論文や本がでているだろうか。

〔回答〕

やはり「日本書誌の書誌」で調べます。主題編Ⅱのなかの「日本文学」の近代(明治・大正・昭和文学)の項に「近代日本文学とキリスト教に関する文献目録と作品目録 斎藤末弘 国文学—解釈と鑑賞 昭42.6 第32巻7号 p.80~96」とでています。これで調べてください。

〔質問例 4〕

大正時代に人形芝居の歴史に関する文献を紹介したものが或る雑誌にのったそうだが、その雑誌は?

〔回答〕

これも「日本書誌の書誌」でわかります。主題編Ⅱのなかに「人形玩具」という項目があり、そこにでています。「人形及人形芝居の歴史に関する文献 小沢愛園 史学 大10 第1巻1号 p.156~160」

〔書誌の書誌を使って文献をさがす〕

以上の例でわかるように、文献をさがすときには、自分がさがしているテーマ・人物に関する文献目録—二次文献—を使うと能率的です。そのためにはどんな二次文献があるのかという二次文献さがしが必要になります。そのとき役に立つのが二次文献の目録=書誌の書誌です。基本的なものを次に紹介しましょう。

書名	収録期間	請求記号
日本書誌の書誌	天野敬太郎編	南雲堂 1973-84
総載編	1868-1965	
主題編Ⅰ	1868-1965	(今出川⑨025.1; A3)
主題編Ⅱ	1868-1970	(田 辺⑨025.1; ニ)
人物編Ⅰ	1868-1970	
人物書誌索引	深井人詩編	日外アソシエーツ 1979
	1966-1977	(今出川⑨027.38; J)
		(田 辺⑨280.31; ジ)
主題書誌索引	深井人詩編	日外アソシエーツ 1981
	1966-1980	(今出川⑨028; F2)
書誌年鑑	深井人詩・朝倉治彦共編	日外アソシエーツ
エーツ	1980-	(今出川⑨028; A3)
		(田 辺⑨025.1; シ)

「日本書誌の書誌」がもっとも包括的ですが新しいものを含んでいません。これに続くのが「人物書誌索引」と「主題書誌索引」です。そしてもっと新しいものが必要なときは「書誌年鑑」で一年ずつさがします。さらにもっと最新刊のものをさがすには「雑誌記事索引」の最新号を使います。〔質問例 2〕の上野先生の業績の場合、この「雑誌記事索引 人文・社会編 1986年 No.1」に「上野直藏先生年譜・主要著書論文一覧 同志社アメリカ研究 22〔86.3〕上野先生追悼号 巻頭4p」というのが英米文学の書誌の項にでています。これは主要なもののみですが、先生の晩年の論文を含んでいます。

〔質問例 5〕

キリスト教と高山右近の関係について調べたいのだがどんな論文や本がでているか。

〔回答〕

高山右近はキリシタン大名ですからキリスト教との関係にふれている場合が比較的多いと思います。それで高山右近の書誌ということでさがします。「日本書誌の書誌」をまず調べてみますができません。つぎに「日本人物文献目録」という本があるのでそれでさがしてみると高山右近の項があり23件の文献がでています。

〔質問例 6〕

明治前期頃の人物で青木信寅とはどんな人か。

〔回答〕

各種人名辞典、古い人名録等を見てもできません。

そこで前記の「日本人物文献目録」を見てみると「蔵書家青木信寅 丸山秀夫 典籍八 昭28」とでています。この雑誌は今出川にあり、その記事をもとで当時の函館新聞の記事や墓碑銘のことまで紹介しています。

〔人物に関する文献目録〕

先に紹介した書誌の書誌以外に次のような二次文献があります。

書名	収録期間	請求記号
日本人物文献目録	法制大学文学部史学研究室編 平凡社 1974	1868-1966 (今出川⑤028.281; H)
人物文献索引	国立国会図書館編刊 1967-1972	
人文編	1945-1964	
経済・社会編	1868-1968 (今出川⑤028.28; K 2)	
法律・政治編	1868-1971 (田 辺⑤280.31; ジ)	
年刊人物文献目録	森勝彦編 日外アソシエーツ 1980-	(今出川⑤028.28; N)
		(田 辺⑤280.31; ジ)
日本件名図書目録	⑥伝記・人名 日外アソシエーツ 1985	1977-1984 (今出川⑤025.1; N 9)
		(田 辺⑤025; ニ)
欧文日本人物文献目録-予備版-	藤津滋生編刊 1981	
備考: 文学者を除く	(今出川⑤028.281; F)	
日本文学・語学研究英語文献要覧	編集吉崎泰博 日外アソシエーツ 1979刊	(今出川⑤028.91; N 5)
備考: 前記で除外されている文学者はこれで補う。		

先の〔質問例 5〕の高山右近の場合「日本人物文献目録」に23件でていますが、もっと新しいものが必要ならば「日本件名図書目録」や「年刊人物文献目録」を調べます。それぞれ何件か文献がでています。「日本件名図書目録」は雑誌等逐次刊行物の記事が含まれていないのでその点注意が必要です。

〔どの人物がどの辞典にでているかを調べる〕

或る人物について略歴を知りたいとき、どの辞書にどの程度記述があるか調べるのに便利な本があります。

人物レファレンス事典 全7巻 日外アソシエーツ 1983	(今出川⑤028.281; J)
	(田 辺⑤281.03; ジ)

これは日本人についてですが、その他に「西洋人物レファレンス事典」「東洋人物レファレンス事典」もあります。

〔質問例 7〕

本学教授森浩一先生のおもな著作(雑誌記事も含む)を知りたいのだが、なにを見たらよいか。

〔回答〕

「人物レファレンス事典」を見ると3つの辞典にでて

いることがわかります。そのなかの「現代日本執筆者大事典」には五百字以上千字以内の記述があるとでています。それでこの辞典を見ると、略歴や住所とともに先生のこの10年間のおもな著作を新聞、雑誌、図書とわけて紹介、さらに「人物研究」として先生紹介の記事名もつけています。現在著作活動をしている人でまだ人名辞典には名前がでていない人を調べるにはこの「現代日本執筆者大事典」がもっとも便利な本です。

〔質問例 8〕

田中王堂の「書斎より街頭に」の出版社、出版年は?

〔回答〕

この本は同志社にはありません。そこで前記の「人物レファレンス事典」を見ると哲学者、評論家、文明史家とあって8つの辞典にでていることがわかります。記述量は「日本近代文学大事典」と「近代日本哲学思想家辞典」が千字以上となっています。哲学者なので後者を引いてみると4頁余にわたっており、伝記的事項のほかに「著書」という項があって彼の著作が紹介されています。「書斎より街頭に」はそのトップにあって1911年に広文堂書店から出版されていること、「夏目漱石氏の『文芸の哲学的基礎』を評す」など13編の論文を含む、とでています。さらに「文献」という項もあって田中王堂に関する研究書も紹介されています。

〔質問例 9〕

Varroという人の「農業論」を見たい。内容は古代ローマに関するもの。日本語訳か、なければ英語訳でも。

〔回答〕

「西洋人物レファレンス辞典」の典拠録で調べると同じVarroという人が4人いて、現代のピアニストを別にするとみな古代ローマの人。そこで「古代・中世編」を見ると「農業論などを著わす」というVarroがあり「世界伝記大事典・世界編」がもっとも記述量が多いとでている。それを見ると約1頁伝記的記述があり、末尾には「参考書」とあって英語訳が“Loeb Classical Library”にあるとでています。この「世界伝記大事典」は日本語訳があれば紹介しているので、ここに紹介がないということは日本語訳がないということです。

〔質問例 10〕

五輪真弓の略歴とレコード・デビューを調べたい。

〔回答〕

「人物レファレンス事典」で調べると81年版の「年刊人物情報事典」にくわしい記述があることがわかります。それを見ると略歴とともに昭和47年に「少女」でレコードデビューしたとでています。このように現在活躍中の人を調べるにはこの事典が役に立ちます。

＜田辺校地＞

ラーネッド記念図書館 この1年—随感—

昨年4月の田辺キャンパスの開校は、本学にとって新しい発展のスタートであったが、早1年経ち田辺・今出川両キャンパスとも課題を抱えながらも順調に歩んだといえよう。

学生の学習を主目的とした当ラーネッド記念図書館も、準備段階では一抹の不安もあったが、関係者の協力もあって利用の多い前・後期の試験期も無事乗り切り、2回目の春を迎えた。そこで、この1年を振り返り利用実態のあらましとともに随感を述べたい。

◇利用の状況

図書館の建物はキャンパスの中心に配置され、内部は、窓際に関覧席を配し、明るく開放的で且つ落ち着いた雰囲気をかもし出している。全面開架方式を採用していることもあって、利用者には使いやすい快適な図書館として好評を得ている。

入館者数は、最も多い日で10,118名（7月7日）を数え、開講期平日の一日平均は約4,000名。一日の時間帯では、ランチタイムが最も多く約1,300の閲覧席がほぼ満席の状況を呈した。ただ、開講期の17時30分以後および休講期（夏・春秋休暇）は、入館者が極度に減少する傾向を見せた。利用実態から今年度の開館（室）時間は、土曜日午後の2・3階閲覧室の開室時間を1時間延長し、休講中の開館時間は初年度よりも弾力的に対応したいと考えている。

見学・訪問の来客者数は、田辺キャンパスの開校初年ということもあって約180件、3,850名に上った。

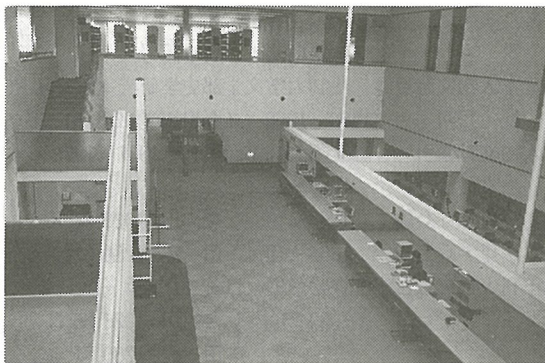
一方、図書の利用は、館内での利用（館内閲覧）数は把握できないが、館外貸出冊数は一日最高514冊（1月13日）、開講期平日の一日平均は約280冊を数えた。

運用面での貸出・返却、目録検索の手続処理等は、開館を機に電算システムを採用し、手作業と比して迅速、簡素、正確に行え、作業上威力を発揮している。今出川図書館でも来年度には同様の貸出・返却システムを導入する予定であり、その分サービスの向上が図れるので期待して頂きたい。

◇所蔵図書資料

施設・館員とともに図書館の主要な柱である図書資料は、田辺校地における授業カリキュラムに沿ったものを中心に学生諸君の勉学に対応できるよう当初約4万2,000冊でスタートしたが、この4月には5万冊余に達した。雑誌も約180タイトルから290タイトルに増加した。今後教員の推せん、学生購入希望申込も含めて質的な面では勿論、量的な面でも充実させ、幅広い蔵書の中から大いに利用して頂くよう力を注ぎたいと考えている。

今出川図書館では約38万冊所蔵しており、必要なときには取り寄せて利用することもできるので、両図書館の資料をフルに活用して頂きたいと願っている。



◇図書館の利用を上手に！

図書館の重要なサービスの一つであるレファレンスサービス＝利用相談（求める資料の探し方、所蔵機関の調査等の援助）も多く利用された。当館で所蔵していない場合でも、今出川図書館を含めて他の所蔵機関を紹介しているので、閲覧・文献複写依頼に関することなど遠慮なく係員に尋ねて頂きたい。なお、館内のコピー料金は、今年度20円から10円に改定された。

また、学年に関わりなく田辺・今出川両校地の図書館を自由に利用でき、貸出・返却も双方で受け付けるなどの便宜を図っている。

展示コーナー（2階）では、新刊書をはじめ日頃、直接目にふれない貴重書、珍しい資料、写真をテーマ別に逐次展示しているので立ち寄ってご覧頂きたい。昨年度は、「新島襄・同志社関係資料」、「同志社第1回卒業生の紹介」、「アメリカにおける新島襄」、「キリシタン関係資料」などを展示した。

以上1年間を概観したが、2年目に当り今年度も蔵書の充実を図ることを主目標におきつつ、利用者の多彩な要望、要求に対応できるよう努めたいと考えている。

将来は、国内外のデータベース、新しく開発された各種のニューメディアを活用して、利用者のニーズに応える学術情報を提供できるようになればと考えている。当面、今出川校地で所蔵している1982年以降受入の図書資料についてカウンターで瞬時にキャッチできるようなシステムを検討している。

おわりに、今後も引き続き建設的なご意見をお寄せ頂くとともに、関係者のご協力をお願いする次第である。

『ペンギン ブックスを読みますか』

ラーネッド記念図書館の蔵書は今出川校地図書館の開架図書とはほぼ同じ構成になっていますが、ラーネッド記念図書館で集中的に収集しているものもあります。ペンギン ブックスもその内の一つです。ペンギン ブックスはイギリスのPenguin Books Ltd.から出版されているペーパーバックの叢書の代表的なもので、1933年より名著の複製を中心としたPenguin、一般教養を中心としたPelicanなどにわかれて出版されています。現在の出版点数は 約5,000点で世界のペーパーバック中最大の規模のものです。ラーネッド記念図書館には約4,500冊の文学を中心とした各分野のペンギン ブックスがありますが、その中から一部を紹介します。

文学書は英文学を中心に、アメリカ文学、ドイツ文学、フランス文学、ロシア文学など古典から現代小説まで数多くあります。英文学ではシェイクスピアの作品がThe New Penguin ShakespeareとThe Pelican Shakespeareの両シリーズに収録されています。詩集ではテニス、シェリーやワーズワースのPoems、小説ではスコットのIvanhoe、ディケンズのChristmas carol、デュフォーのRobinson Crusoe、ロレンスのSons and lovers、ジョイスのUlysses、ドイルのThe Penguin complete adventures of Sherlock Holmes、グリーンのThe Third manなど。他に、ブロンテ姉妹、コンラッド、デュモリア、モーム、オーウェルらの作品もあります。アメリカ文学では、スタインベック、フォークナー、ホーソン、トウエイン、ペローらの作品の他にアプダイクのRabbit run、ギャリコのPoseidon adventure、フィッツジェラルドのGreat Gatsby、サリンジャーのFranny and Zooyなど。マクベインの87分署シリーズ、ハメットやチャンドラーの私立探偵シリーズ、映画「太陽がいっぱい」の原作であるハイスミスのThe Talented Mr. Ripleyなどもあります。

ドイツ文学では、マンのDeath in Venice、グラスのTin drum、ヘッセのSteppenwolf、エンデのNever-ending story、カフカのThe Penguin complete novels of Franz Kafka、ブレヒトのParables for the theatre、シラーのThe Robbers & Wallensteinなど。

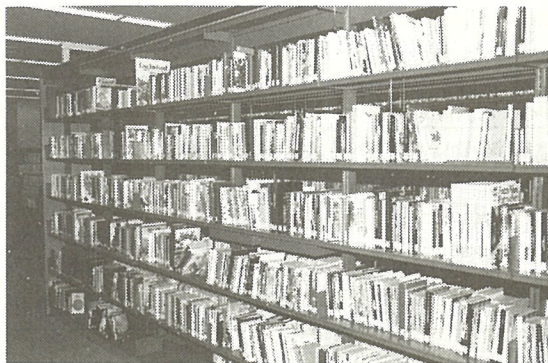
フランス文学では、カミュ、サルトル、モーパッサン、ボーボアール、コレット、フローベル、ジイドらの作品、ユーゴのLes Misérables、デュマのThe Three Musketeers、バルザックのOld Goriot、ル・カレのCall for the dead、サガンのBonjour tristesses、ヴェルヌのJourney to the center of the earthなど。シムノンのメグレ警視シリーズもあります。

その他ロシア文学ではドストエフスキー、トルストイ、チューホフなど、イタリア文学ではダンテ、ボッカチオなど、ギリシャ文学ではユリピデス、ソフォクレス、ホーマーなどの作品があります。

伝記では、アメリカ35代大統領ケネディ JFK : the Presidency of John F. Kennedy、蒸気機関車の発明者 George and Robert Stephenson : the railway revolution、チャップリンMy autobiography、ガンジーAutobiography、ナポレオンNapoleonなど、1878年（明治11年）に日本を旅行し「日本奥地紀行」を書いたバードの伝記A Curious life for ladyもあります。

語学の本ではTest your vocabulary、1-4やSuccess with Englishなど。クロスワードの本はThe Penguin jumbo book of the Sun crosswordsなど多数あります。旅行案内書ではアメリカ東海岸のガイドVisiting America、ルート地図のついた英国ウォーキングガイドThe Penguin footpath guides、A Hitch-hiker's guide to Great Britainなど。スポーツ、健康に関する本ではナブラチロワのTennis my way、Vogue book of diets and exercise、Physical fitness など。料理の本ではQuick cook、The Penguin cookery book、The Penguin book of herbs and spices、Geraldene Holt's cake stallなどの他にイギリス、フランス、地中海、東南アジア、中国、ジャマイカなど世界各国の料理の本もあります。音楽の本ではThe Penguin book of folk ballads of the English-speaking world、The Complete Penguin Stereo record and cassette guide など。これらの本の他にニューヨークの建築物案内The City observed、窓の写真集Windowなどや宗教、歴史、経済、社会、自然科学などの分野の本もあります。

ペンギン ブックスはラーネッド記念図書館2階の開架閲覧室に配架してありますのでご利用下さい。



相互利用について

—最近5ケ年の統計から見る—

分担収集・目録・保存、そして相互利用の時代といわれて久しいが、本学図書館でもサービスに占める相互利用業務の割合が年々増加の傾向にあります。

最近5ケ年の別表のような相互利用の統計をとって見ました。相互利用は文献複写・図書貸借・照会等が主たる業務ですが、その内、文献複写業務が圧倒的な割合を占めています。また、その大半が雑誌論文の複写業務となっています。相互利用業務はサービスを向上させればさせる程、増加の傾向を辿ります。また、目録を完備すればする程、増加します。

60年度から目立って増えて来たのは、本学図書館が逐次刊行物の総合目録を発行した事と学術雑誌総合目録の和文編が発行された事に、少なからず関係があると思います。またこの年から海外図書館へ積極的に依頼したのも大きな増加要因になっていると思います。

機関別に見ると、やはり圧倒的に大学図書館の依存度が高くなっています。引受と依頼の相対比率を見ると、大学図書館では本学が7対3の引受過多となっており、公共図書館ではほぼ依頼のみとなっており、この傾向は、大学図書館では本学は比較的多くの逐次刊行物を所蔵している(約2万タイトル)か、または本学からの依頼件数が少ないかを示しています。公共図書館ではほとんど国会図書館と大阪府立中之島図書館に対する依存度が高いためです。

(5ケ年間の図書貸借)

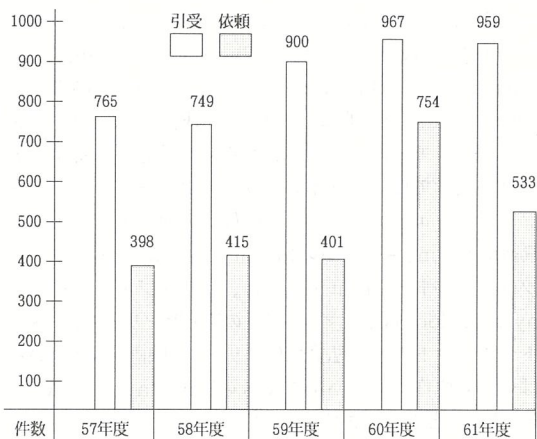
	貸与	借用
大学図書館	7	4
公共図書館	0	91
海外図書館	0	12
その他	0	0
合 計	7	107

図書館の相互貸借が大学図書館間であまり進んでいないのは、利用が少ないというより、各大学とも制限しているのが大きな原因だと思います。むしろ海外の大学図書館の方が、依頼すれば割合貸して貰えるというのが現状です。まだまだ日本の大学図書館は遅れているといつて良

いでしょう。

海外図書館と比較した時、距離と時間と料金を勘案すると、日本の図書館のサービスはまだ向上しなければなりません。例えば、ヨーロッパのある国に依頼した例をみると、依頼状を投函した日から現物が届いたのは13日目で、150枚位の文献複写でしたが、しかも航空便の送料と送金料を付加しても1枚あたり40円弱です。さらにサービスが良いのは、自分の図書館にないものはよその図書館に廻し、廻されて来た図書館は責任を持って、その後の処理を行うというサービスぶりです。海外図書館がすべてそうだとは言えないし、日本の図書館がすべてサービスが悪いとも言えないが、このヨーロッパの図書館の例は相互利用サービスの範として心に留め、利用者にとって一番望む方向を今後追求しなければならないと思います。

(文献複写件数棒グラフ)



(文献複写件数比較表)

(昭和62年2月22日現在)

年 度	57年度			58年度			59年度			60年度			61年度			5ケ年合計			相対比	
引受・依頼	引受	依頼	合計	引受	依頼	合計	引受	依頼	合計	引受	依頼	合計	引受	依頼	合計	引受	依頼	合計	引受	依頼
大学図書館	733	271	1004	732	338	1070	851	316	1167	916	432	1348	918	353	1271	4150	1710	5860	71%	29%
公共図書館	14	119	133	1	65	66	0	72	72	0	294	294	0	86	86	15	636	651	2%	98%
海外図書館	0	0	0	1	0	1	1	7	8	0	22	22	13	88	101	15	117	132	11%	89%
その他	18	8	26	15	12	27	48	6	54	51	6	57	28	6	34	160	38	198	80%	20%
合 計	765	398	1163	749	415	1164	900	401	1301	967	754	1721	959	533	1492	4340	2501	6841	63%	37%

(昭和61年度の統計の内、2月24日～3月31日は未統計)

「特別研究図書費」による購入図書(3)

—より一層の共同利用を—

1984年4月より新たに設定された「特別研究図書費」による図書購入も3年目を迎えました。

研究資料費は、学部教員用としての学部図書費、研究所の図書費、学部教育研究助成費、個人研究費、とこの「特別研究図書費」から成立っています。

この「特別研究図書費」の持つ意味は、単に研究資料費が一学部相当分増額された、というだけではなく、もっと別の大きい意味があります。

従来研究資料費は部科別配分(学部図書費・研究所資料費)や個人別配分(個人研究費)であり、資料収集は部科毎縦割りであり、様々な問題をはらんでおりました。いわく、高額大型資料の収集は困難である。(「文部省私立大学研究設備整備費等補助金に係る研究設備」の「特定図書」の補助金申請という制度があるというものの、交付されるとはかぎらない。)また、各学部学科・各研究所に利用がまたがるような資料も集められにくい。さらに、専門課程が設置されていない分野の資料も、少し高額になれば不可能に近い、等々であります。そして可成り高額な資料でも、重複が生じやすく費用効率の点からも問題があったと言えます。

そこで、上記のいろんな問題点を少しでも解消できるよう、「特別研究図書費」が設定され、共同利用の観点から、図書館が収集の窓口となって運用し、資料の所蔵保管の任に当たることとなりました。^(注1)これにより図書館は研究図書館としての機能をよりよく発揮できるようになりました。

1986年度内に同図書費で購入した図書資料は下記の通

りです。他の図書資料と同様、所属身分等にかかわらず、広く利用が期待されるところであります。

ただ、リストでお判りいただけるように、図書資料の内には、本来なら「禁帯出」となるものも含まれております。(マイクロフォームのもの等)。しかし図書館で所蔵保管することにより、利用上著しく不便になることのないよう、「特別研究図書費」による購入図書資料に限り、特別の配慮をいたします。

また、このリストは、関西四私大(関西・関学・立命館・同志社)の収書情報連絡会においても、四大学それぞれ同様なリストを交換し合い累積して一冊のパンフレットにまとめられております。したがって関西四私大の相互利用にも拍車がかかるのではないかと思います。同パンフレットは、1987年度「特別研究図書費」により図書の購入希望を募る時に、重複購入を可能なかぎりさけるためにも、配布し、ご利用いただけるようにする予定です。

^(注1)「資料の保管場所は原則として図書館とする」(特別研究図書費の運用要項「資料の保管」)ののですが、特別な事情がある場合、例外的に扱っております。本年度購入資料のうち、6番と9番がそれに該当します。これらは田辺校地に研究室がある部科より申請され、かつ他の部科との共同利用があまり期待できない資料であるので、申請のあった研究室で所蔵していただくことになりました。

^(注2)※印を付した資料は文部省の「研究設備」の助成金の対象となったものです。

1. Annual Reports of Local Government Board, 1st-48th (1871/2-1918/19) [318.933 ; AS]
2. British History Collection (英国史), 221 books. [各巻別請求記号]
3. Bulletin des Arrêts de la Cour de Cassation, Chambre Civiles, 1947-80 (microfilm) [PFM12]
4. CIS Index 1970-85 [028 ; CS/CS-2~4]
5. CIS US Congress Committee Hearing Index, pt. 3-7. [027.2 ; C2-2]
6. 長沙大公報, 1917年1月-1927年(1915創刊, 1927年3月2日発禁), 全57冊 [P072 ; D] (二外)
7. Index to International Statistics & Companion Microfiche Service, 1985. [028.359 ; IS]
8. John Stuart Mill Studies, 62 items. [整理中]
9. Journal of Biomechanics, vols. 1-18 (1968-85) [P460.3 ; J7] (体育)
10. Leading U. K. Companies Annual Reports & Accounts, 1933-83/84, 1st ser. -50 Companies (microfiche) [各巻別請求記号]
11. National Inventory of Documentary Sources in the United States, pt. 2 : Manuscript Division, Library of Congress, 900 microfiches in 3 binders with printed index. [FF3]
12. National Sample Survey Reports (Central Statistic Organization), nos. 1-242 (20 nos. 欠) [352.5 ; N]
13. Quarterly Economic Review, 1952-83. 6049 microfiches [PFF3]
14. Revue Philosophique de la France et de l'Etranger, vols. 1-150 (1870-1960) with gen. indices 1/7 ※ [P100.5 ; R3]
15. 下村孝太郎宛及自筆書簡; 孝太郎宛海老名弾正他書簡506通, 自筆書簡135通, 家族への書簡及び葉書800通 [社史]
16. Sozialistische Monatshefte, vols. 1-77 (1897-1933) with S. Akademiker, vols. 1-2 (1895-96) [P309 ; S26]
17. Theory and Practice on Education : Dissertations collection, 318 interns (Xerox ed) [各巻別請求記号]
18. The Times (London), 1785-1837. [PFM11]
19. 都道府県統計書集成 昭和戦前編 326 リール [PFM10]

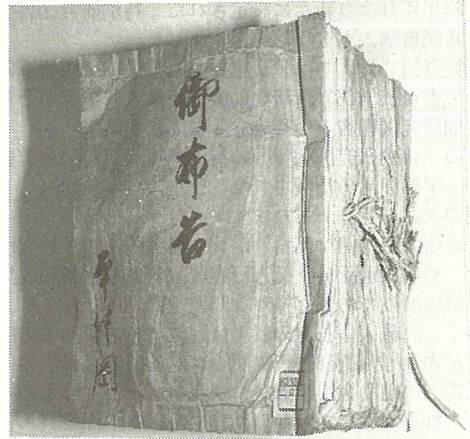
御 布 告

本館の貴重室に半紙二つ折（B5版位）で厚さ16cmほどの文書の束があります。渋紙でつくった表紙には中央に太く「御布告」、左下角に「本仲間」と墨書してあります。なかみは一部印刷物（木版）も交っていますが、ほとんど墨書きの文書で、年代は、明治3年から6年（1870～1873）の間のものです。慶応4年7月、京都府が町組を改正し、上京、下京の両大組とし、さらにその中をおよそ20町づつを集めた小組としました。その後、明治2年に町組の改正があり、上・下両大組ともそれぞれ1番～33番の小組が作られました。大組には、大年寄が置かれ、小組には中年寄と添年寄が置かれ、民政の事に当りました。この文書は、上京11番組のもので、太政官布告、京都府通達等の全てを綴じたものらしく、種々雑多な内容をふくんでいます。上京11番組は現在の桃菌学区に当り、今出川大宮を中心とし、東は堀川、西は浄福寺、北は五辻、南は一条を見当とする地域です。

時はあたかも、維新の動乱未だ醒めやらずと言った頃ですから、内外の動きが一片の通達にも反映し、又過渡期の様相も如実にあらわれています。目につくものとしては、新たに定められた海外渡航許可の手続きがあり、帯刀以上の者は京都府より、外務省を経て許可、以下の者は京都府において許可など身分差がある所が面白く、又、垂片戦争の影響か、垂片の取締り、海外への人身買売禁止などがあります。内政上のものは、当時の府が、司法、警察、行政等の全ての権力を集中していたこともあって、あらゆる問題をふくんでいます。小学校の建設、同業会社（組合）の設立、酒造の許可、通貨の両替、等の大きな問題から、家出人の触書まで多種多様です。

以下は前出の海外渡航に関する規則です。（読下し）

外国渡航の儀出願之規則向後左の通



1. 帯刀已上の者ハ管轄府藩県エ願出で、府藩県におゐて篤と取組の上外務省に相伺い、いよいよ不都合のかど之無く候はゞ御印章相渡し、開港場より乗船御許可に相なり候事

1. 其余の者ハ管轄府藩県にて相糺し不都合のかども之無く候はゞ其旨書面に認め当人に相渡し開港場裁判所エ右の書面持参願出申すべく、同所におゐて更に同人糺方是迄の通相心得、いよいよ似て不都合の儀も之無く候はゞ同所より直に御印章相渡追て外務省に相届申すべき事

右の通先総じて先般御布告の通に之有候間府藩県とも其旨相心得べき事

正月 太政官

右の通り仰せ出だされ候間、山城国中社寺とも洩なく相達する者也

二月 京都府

この外の通達等もおゝむねこのような文章です。明治と言っても未だ江戸のにおいがふんぷんとしています。

“びふりおてか”

同志社大学図書館報 No.41 1987年4月1日 発行

発行 同志社大学図書館 京都市上京区今出川通烏丸東入 電話 251-3971

編集責任者 西田逸郎（図書館庶務課長） 印刷 眞興社